

若手研究者 海外派遣 報告

所属：福島県立医科大学 右近直之
参画事業：革新的がん医療実用化研究事業
派遣先：University of Gothenburg

2020年1月12日～19日の1週間スウェーデン、ヨーテボリにあるGöteborg大学Sahlgrenska Academyでの実験に参加するため、訪問しました。

Göteborg大学のTATグループ（放射線治療科と放射線物理科の研究者からなる混成チーム）は、20年以上に亘って α 線核種の分離精製及び α 線核種の新規薬剤の開発ならびに臨床試験を実施しています。また、世界的にも高度な施設であり、世界で2例目の α 線放出核種標識化合物による臨床研究を行うなど、最先端の医学研究に応用しています。

TATグループのチームの一員であり派遣先研究者の一人であるPalm博士は、国際的な α 線核種の使用、技術基準等について世界最先端の知見を有しています。また、もう一人の派遣先研究者であるBäck博士は α 線分布を視覚的に評価するアルファカメラの開発者であり、第一人者です。アルファカメラによって組織内の α 線核種の分布を測定できれば、腫瘍組織の中での細部の局所集積の状態、正常組織との関連およびその影響等を視覚的に確認でき、さらに局所集積を定量することができる優れた技法です。今回の派遣ではこのアルファカメラによる撮像技術を取得するため、実際に α 線放出核種を動物に投与し、体内臓器における分布を可視化するための実験に参加させていただきました。開発者であるBäck博士から直接指導を受けながら実験手技を確認し、データ取りから解析方法まで、細かくご教示いただきました。また、Palm博士を含むTATグループの皆様とDiscussionする機会も設けていただき、 α 線治療のためDosimetryやRIの管理についてなど、議論することもでき大変勉強をさせていただきました。

本派遣を通して、大変貴重な経験をさせていただけるだけでなく、TATグループの先生がた皆様に大変親切にさせていただきとても楽しく充実した研修となりました。今後も継続した関係を維持していきたいよう、自身もより研究を進め精進して参りたいと思います。

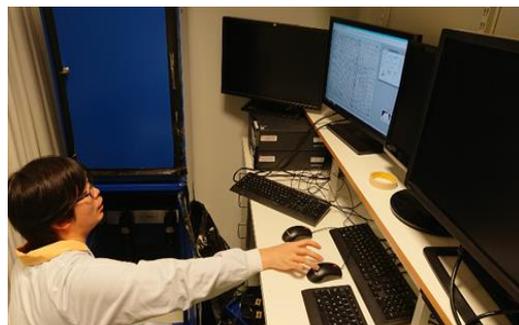


Fig.1 実験の様子



Fig.2 研修先の担当研究者
左:Palm博士、中央:筆者、右:Bäck博士